

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701236		
法人名	医療法人 恵仁会		
事業所名	慈花苑・けやき荘		
所在地	青森県三戸郡田子町大字田子字風張 20-21		
自己評価作成日	平成24年8月30日	評価結果市町村受理日	平成24年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成24年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>誤嚥性肺炎の防止、口腔機能低下防止を目的として、平成22年11月より、歯科医師による居宅療養管理指導を行っています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者への声がけ等、職員は上辺だけの対応にならないよう、気持ちを大切にして、日々のケアに取り組んでいる。 また、ホームでは利用者の口腔ケアに力を入れており、食事前に全員で口腔体操を行ったり、洗面台には利用者各自の名前付きの入れ歯用歯ブラシを配置して、予防ケアに取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念はホールと事務室に掲示し、ケア内容に悩んだ時等は理念に立ち返って判断するよう心がけている。	ホーム独自の理念は、高齢者に優しく、住みよい地域の環境づくりを意識したものであり、地域密着型サービスの意義を反映させている。管理者及び職員は、ホーム行事や自治会活動等への参加の際に、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる行事には、できる限り参加している。当事業所でも自治会の協力を得ながら、地域交流会を行っている。	定期的に地域交流会を開催する等、地域とのつながりを維持できるよう努めている。また、夏祭りには地域住民がたくさん参集しており、ホームが地域の一員として認知され、交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についてのパンフレットを作成し、近隣住民へ配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現在の利用者の状況等を報告している。また、メンバーからの情報を得て、運営に活かせるように努力している。	2ヶ月に1回開催している運営推進会議には、町内会長や家族代表、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員、他の施設職員等が参加し、それぞれの立場から意見を出し合っている。また、会議では日々のケアの様子や外部評価結果の報告も行い、問題点や改善点等を話し合い、サービス向上へつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には町の職員も参加している他、入所判定会等にも参加していただいている。必要に応じてアドバイスを得ている。	運営推進会議への参画や定期的に役場へ出向くことで、町担当者と日頃から連携を図っている。必要な情報提供や研修案内等もいただきながら、利用者についての連携や助言が必要な時に、随時協力を得る体制を整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について内部研修会を行っている他、日常の介護で気がついたことはその都度職員に話し、身体拘束をしないケアをしている。	内部研修等を通じて、身体拘束について定期的に全職員で見つめる機会を設け、常に共通理解を図りながら、身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関・居室は施錠せず、外出傾向があれば利用者が納得するまで付き添っている他、無断外出時には近所から通報していただく等の協力が得られるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者のあざ等を発見した場合、事実確認をしている。虐待防止について、職員全員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を現在利用している利用者はいないことから、概要について理解していない職員もあり、内部研修等で知識を得るように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明をして理解を得た上で契約締結をしている。また、締結後も疑問点については再度、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来た時を利用し、要望や意見があれば聞いている。推進会議でも報告し、反映できることは行っている。	利用者の反応や仕草等を観察し、意見や要望等を察知してケアへ反映させるよう努めている。また、家族の面会時には、利用者の近況等を報告しながらコミュニケーションを図り、意見や要望等を積極的に聞き取るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出た提案は、できる限り反映するように努めている。	連絡ノートや月1回の職員会議にて、職員が意見や気づきを表出できる機会を設けている。また、職員の提案については、共通理解の下、ケアへ反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境づくりや介護に必要な物品の購入等、職員が働きやすいように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や講演会へできる限り参加させている。研修に参加した職員は、職員会議にて内容を報告しており、詳細について報告書を提出し、全職員に回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等への参加を通じて、同業者と交流できる機会を設けている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時、利用者の話を聞きながら、不安なことがあれば解消して、安心して入所できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも入所前に面談して、要望や意見があれば、できる限り沿えるような体制づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族のニーズ、本人のニーズが必ずしも一緒ではないので、本人のニーズを考え、本人及び家族にも納得していただけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ早く信頼関係を築けるように努力しているが、慣れ慣れしくならないように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆は深く、私達職員では埋めることのできないことがたくさんあるので、情報を提供し、家族からの意見を参考にしたり、時には家族が直接話したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう、利用者の要望により外出することもある。	馴染みの人との関係性は、相手方の都合や気持ちへも配慮をしながら、できる限り、関係を継続できるように支援している。また、利用者の希望にはできる限り対応できるように努めており、自宅や美容院等、馴染みの場所へ外出できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やソファでの座る場所を考え、利用者同士が関わりを持ちやすいように誘導している。本人が嫌がる場合は無理に勧めてはいない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により契約が終了しても、次の受け入れ先や家族からの要望に、可能な限り応じるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメントで、本人の意向及び家族からの情報を得ながら、暮らし方の希望を聞き、できる限り意向等に沿えるようにしている。	可能な限り利用者や家族から聞き取り、利用者が満足できるよう支援に努めている。また、利用者との日々の関わりの中で、全職員が観察力を高めながら思いや意向の把握に努めており、利用者本位となるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での情報はケアマネや家族から得ている。入所後も、本人との会話等からの情報を基に、安心できる環境を生活の中に取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムを大切にしている。その日の気分や体調等を考慮し、できることは本人にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員全員でのケア会議を開催し、面会時等で把握した家族から意見や日々の情報を総合し、介護計画に活かしている。	全職員参加のケア会議で介護計画を作成しており、家族からの意見や要望、利用者への日々のケアの中からの気づき等を加味し、決定している。介護計画は実施期間を明示して終了後には見直しをしている他、利用者の身体状況の変化等に応じて随時見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいてケアを行っているか、毎日の記録に記載して確認している。変化のある時は、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の急な体調不良への対応や外出、家族の都合等、その時々状態に応じたサービスを行い、柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や民生委員、近隣住民からも協力していただきながら、安全に生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医へ受診できるように支援している。必要に応じて往診をお願いしたり、歯科医等へも受診している。	これまでの受療状況を把握しており、利用者及び家族の希望に応じて町内の医療機関へ受診できるよう支援している。また、医療機関との連携を密にして、場合によっては往診の支援も受けられる体制を整えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師が不在のため、法人の看護師に相談し、アドバイスを得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はまめに面会をして、医師や看護師から情報を得るようにしている。また、医療協力体制についても契約をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合や終末期の対応について十分に説明をし、確認書をいただいている。	入所時にホームでのケアの可能な範囲を説明し、重度化や終末期の対応について理解を得ている。また、日頃から町内の協力医療機関とのチームケアに努めており、緊急時には駆けつけてもらえる関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急の講習を受けている。急変時の対応について事務所に掲示している。実践の訓練はしていないので、今後、取り組みたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1回避難訓練(夜間・日中想定)を行っている。近隣住民にも自治会の総会等において協力をお願いしている。	昼夜を想定した避難訓練を実施しており、全職員が適切な避難誘導について理解している。また、地域住民からの協力が得られるよう、自治会へ継続して働きかけを行っている他、災害発生時に備えて缶詰等の食料を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは、利用者の羞恥心等を考え、さりげなく行っている。居室には暖簾を活用してプライバシーを確保している他、職員は守秘義務や個人情報について理解している。	利用者の呼称や声かけは個々を尊重したものを基本とし、全職員が共通理解をした上で利用者として接している。職員間での情報伝達の際は利用者の名前や部屋名は使わずに、職員間のみで共有している特定方法を用いており、利用者のプライバシーに十分に配慮している他、守秘義務や個人情報保護の取り扱いについても厳格な対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の能力に応じて、日常生活の中や外食時等には自己決定できるような場面づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調やペースに合わせて過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣類は、できる限り利用者を選ぶようにしている。また、同じ物ばかりを着ないように促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の嗜好を把握している。また、食事の準備や後片づけ等、できる方とは一緒にやっている。	一人ひとりの嗜好を把握しており、見た目でも美味しくなるような配膳をして食事を提供している。毎食、職員が共に食事することから、声かけや会話が自然と生まれ、楽しい食事時間となるように努めている。また、可能な方には下膳やテーブル拭き等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、残量を記録しており、残量の多い時は、体調の変化がないか確認をしている。また、水分を十分に摂取できるように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医による居宅療養管理指導を月2回行って、口腔状態を診ていただいている。食後には必ず義歯の洗浄の声かけを行い、できない部分は介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を見て、できる限りトイレで排泄するように声かけをしている。	利用者の排泄状況は、個人記録から職員が情報を共有しており、事前誘導を基本として、極力、自立可能な支援を心がけている。また、失禁時等は利用者の気持ちを察してさり気なく対応する等、羞恥心やプライバシーへも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をまめに行ったり、繊維質の多い物を提供している。また、適度に運動する等、個々に合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	毎日入浴できる環境にあり、体調や本人の希望に合わせて入浴の支援をしている。また、洗身は個々の能力に合わせて支援している。	毎日でも入浴できる環境にあり、利用者一人ひとりに応じた支援に取り組んでいる。また、入浴を無理に勧めず、利用者の気分や意向、体調等へ配慮しながら、支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースに合わせ、休息を取ってもらえるように促している。夜間、十分な睡眠がとれるよう、日中の離床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬がないよう確認している。処方が変わった場合は職員全員がわかるように記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の力を活かした役割を持っていただいている。外苑の散歩やドライブ等で気分転換を図っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的ではないが、外出したい利用者がいれば支援している。季節を感じるができるよう、全員参加のドライブを年2回行っている。	外出による利用者の気分転換を大切に、希望に応じて外出支援を行っている。また、移動距離や体調等も考慮の上、全員参加にてドライブを行っており、利用者が外出を楽しんでいただけるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の能力に合わせた金銭管理をしている。家族と相談の上、金額を決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に電話が来た場合はプライバシーに配慮して、居室での会話ができるよう支援している。また、電話をかけたい時は、間違い電話で相手に迷惑がかからないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるように、照明や室温等に気をつけている。季節を感じてもらうように、食卓のテーブルへ花を飾っている。	日当たり良く、暖かな室内には柔らかな音楽が流れており、利用者が心地よく過ごせる空間となっている。ホール内には油絵や季節に応じた装飾の他、利用者の手作りの作品も設置され、家庭的な雰囲気となっている。また、温・湿度計を設置して、適切な空調を保てるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを利用し、一人で過ごせる場所や、気の合う利用者同士が雑談できる場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、布団・家具・小物等、本人の使っていた物を持ってきてもらうように働きかけている。	馴染みの物品の持ち込みを基本としながら、希望に応じてタンスや布団、位牌を配置し、一人ひとりの個性を活かした居室づくりを行っている。また、職員は、これまでの愛用品や馴染みの物を持って来ていただけるよう、積極的に働きかけており、利用者と一緒に居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ等に手すりがあり、玄関にはスロープがある。手すりを使っての歩行訓練や、トイレでの立ち上り等が安全にできるよう工夫している。		